

中京区民生活実態調査結果ダイジェスト版

編集・発行

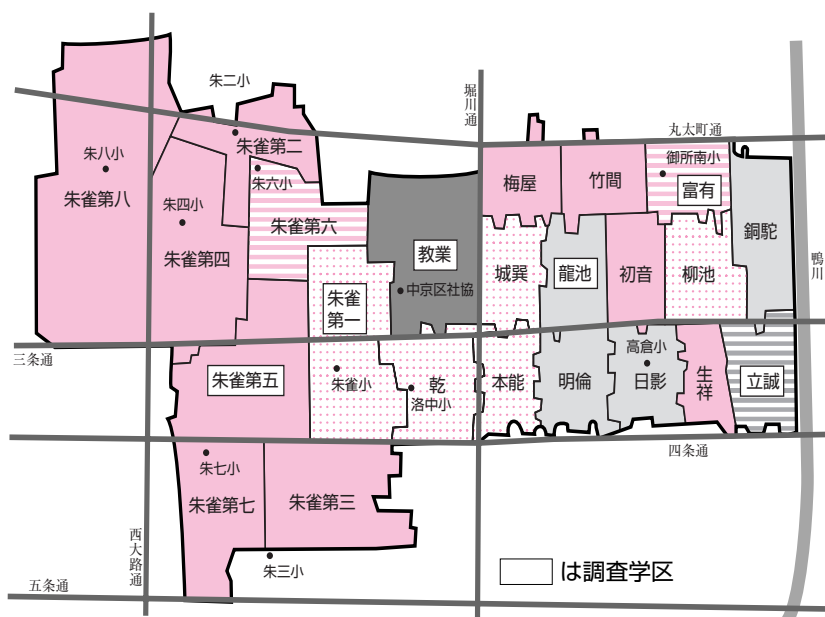
社会福祉法人 京都市中京区社会福祉協議会

〒604-8316 京都市中京区大宮通御池下る三坊大宮町121-2 TEL.075-822-1011 FAX.075-822-1829
http://www.mediawars.ne.jp/fukusi06

中京区社会福祉協議会では、去る3月1日から9日まで中京区民生活実態調査「中京区民のくらしと地域福祉に関する実態調査」を実施しました。

調査にあたっては中京区の23の元学区を人口密度と30年間の世帯数の変化の状況から割り出した6つ

のパターンに分類をしました。その中からそれぞれ、富有・教業・龍池・立誠・朱一・朱五学区の1.2ヶ町の計663世帯のみなさまがたにご協力をいただいて、調査員の聞き取りによる調査を行いました。



I	人口密度が高く世帯数が増加	城巽・柳池・乾・本能・朱一
II	人口密度が高く世帯数が微増	梅屋・竹間・初音・生祥・朱二・朱三・朱四・朱五・朱八
III	人口密度が高く世帯数が減少	富有・朱六
IV	人口密度が中位で世帯数が微増	龍池・銅駝・明倫・日影
V	人口密度が低く世帯数が微増	教業
VI	人口密度が低く世帯数が減少	立誠

調査時期：2002年3月1日～9日
回収率：73.2% (485/663)

この調査での基本的な特徴

世帯構成と住まいの形態

調査対象世帯の世帯構成は、比率の高い順で「夫婦と子」(29.3%)、「夫婦のみ」(22.5%)、「単身」(20.4%)、「三世代」(13.4%)、「生計中心者と親」(8.5%)、「夫婦と親」(2.1%)、その他(3.8%)となっています。

また、調査対象世帯の住まいの形態は「一戸建て

の持ち家」が79.9%と圧倒的に高く、ついで「民間借家」(10.9%)、「賃貸マンション・アパート」(6.4%)、「棟続きの持ち家」(4.5%)、「分譲マンション」(3.5%)となりました。マンション・アパートを合わせると、1割弱となります。

国勢調査との比較

平成12年の国勢調査では、中京区内の「単身」世帯の割合は、44.8%となっています。また、マンション・アパートなどの共同住宅に住む世帯は、中京区全世帯の46.7%というデータがでています。今回

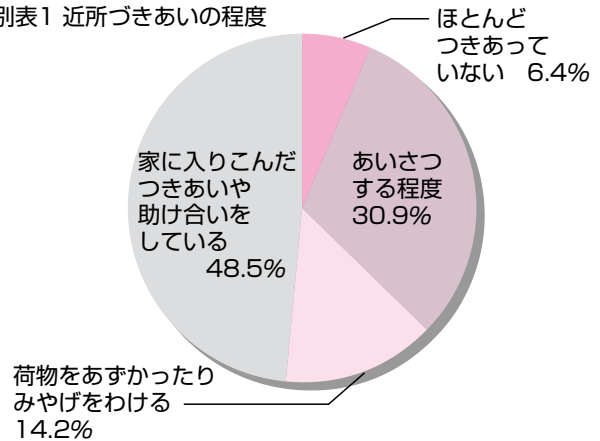
の聞き取り調査では、これらのデータは国勢調査の結果をはるかに下回っており、オートロックのマンションのなかに調査員が入ること自体が困難をきわめたことが反映されています。

● 地域でのつきあいと生活問題意識 ●

近所づきあい

今回の調査では近所づきあいの程度は別表①のとおりとなりました。「単身」世帯では「ほとんどつきあっていない」が20.2%にも及び、また、「分譲マンション」「賃貸マンション・アパート」で近所づきあいの程度が薄いという結果がでています。マンション・アパートでの調査回答が増えれば、近所づきあいが希薄となっている実態が浮き彫りとなることが推測できます。

別表1 近所づきあいの程度



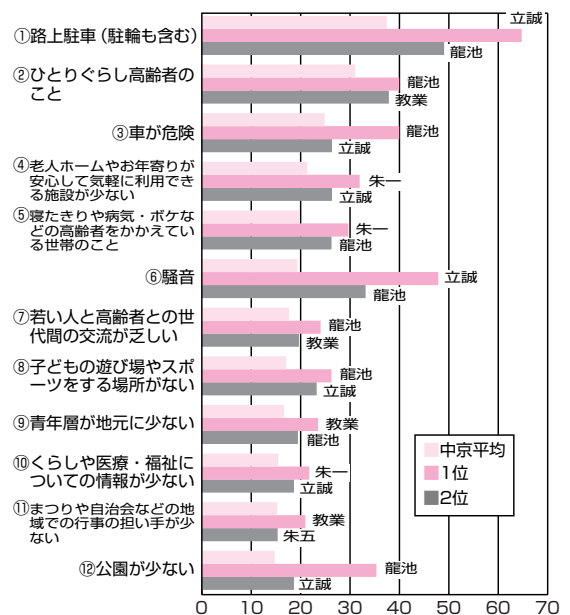
地域の生活問題意識

「あなたが住んでいる地域で、日頃、何とかしなければならないと思っていることは何ですか」という地域の生活問題について比率の高いものから順にあげると別表②のとおりとなります。京都市の中心市街地ということもあって車・自転車問題、高齢者問題の比率が高いといった特徴があります。また、新たなマンション等が建設され若い層の世帯数が増加していることの反映として、子ども・青少年問題に関するものも上位を占めています。

地域別にみると、龍池学区と立誠学区で何とかしなければならないと思っている項目の全体値を上回っているものが増えてきています。この2学区は堀川通よりも東の地域ですが、東地域は社会福祉施設の整備が遅れている地域であり、しかも近年にはマンションの建設が顕著になってきています。そのような地域で、とくに住民が生活課題として感じておられる問題が深刻化しているといえるでしょう。また立誠学区の場合は繁華街ならではの課題が明確に出ています。

別表2 地域の生活問題意識 全体値と上位2学区の状況

(地域で日頃何とかしなければならないと思っていることベスト12)
(複数回答)

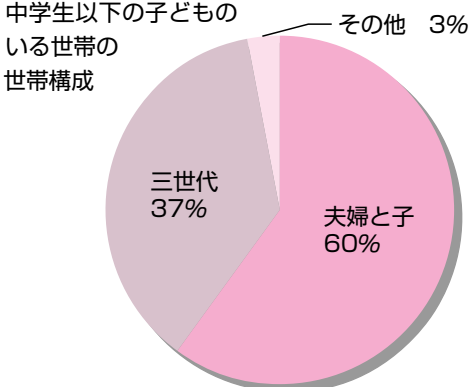


● 子どもの問題 ●

子どものいる世帯

今回の調査では、中学生以下の子どもがいる世帯は20.4%でした。そのうち内訳別表③のとおりです。住まいの形態別にみると「分譲マンション」で中学生以下の子どもがいる世帯が58.8%となっており、近年建築されたマンション等で子どものいる世帯が増えていることが推測できます。

別表3 中学生以下の子どもがいる世帯の世帯構成



子どもの昼間の様子

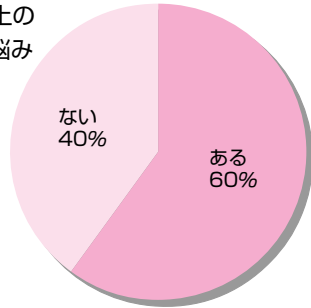
「昼間主に誰がみておられますか」との問で、「3歳未満」の場合は「親」以外では、「保育所」が8.7%となっています。「3～5歳」の場合は「保育所」が25.0%となりました。「小学1～3年生」の場

合は、「学童保育(クラブ)」が8.8%となり、「子どもだけでいる」も8.8%となっています。「小学4～6年生」の場合は、「祖父母」の比率が40.7%となりますが、「子どもだけでいる」も11.1%ありました。

子育て上の不安と悩み

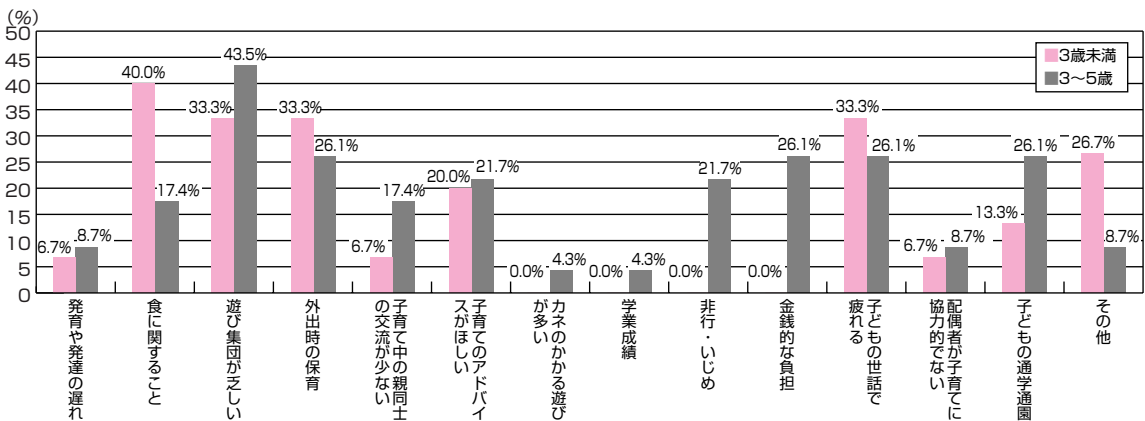
「子育てをしていて不安や悩みはありますか」との問に対しては別表④のとおりとなりました。就学前の子どもの年齢別にみた子育て上の不安・悩みについては、別表⑤のとおりとなっています。不安・悩みのなかでも「食に関すること」、「外出時の保育」「子

別表4 子育て上の不安と悩み



別表5 就学前までの子育て上の不安と悩み

(年齢構成別) (複数回答)



育てのアドバイスがほしい」は「夫婦と子」といった核家族世帯において、相対的に高い比率となっていますが、「三世帯」世帯ではほとんどあげられていませんでした。

また、近所づきあいの程度で「ほとんどつきあっていない」世帯で、子育ての悩みが「ある」世帯は71.4%と高くなっています。そして、「子育てのアドバイスが欲しい」(40.0%)、「子育て中の親同士の交流が少ない」(20.0%)といった項目が高くなっています。

家族員が少なく、普段の近所づきあいが薄い世帯で子育て上の不安や悩みをかかえている世帯が多くなってきていることが読み取れます。親子が気軽に集まって、共に子育てを励ましあえるような場が求められているのではないのでしょうか。

高齢者・障害者の問題

高齢者・障害者等の要介護者のいる世帯

「一緒にくらしているご家族の中で、高齢や寝たきり、病気・障害などのために介護を要する人がいますか」との問に対して、「在宅でいる」が40世帯(8.2%)、「病院に入院している」5世帯(1.0%)、

「施設に入所している」が3世帯(0.6%)、合計して48世帯(9.9%)の世帯で要介護者がいるという実態でした。

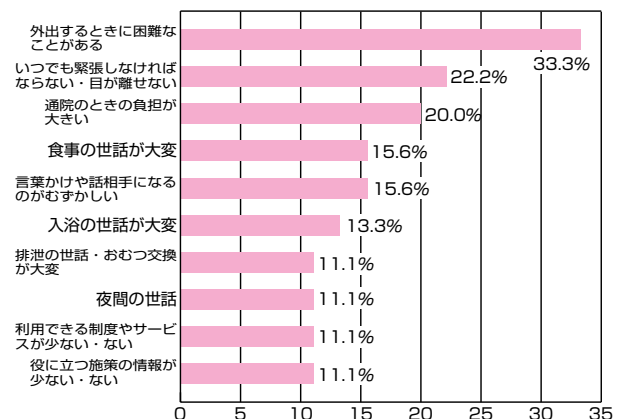
介護上の困りごと

別表⑥のとおり介護のことにかかわっての悩みでは、三大介護といわれる食事・入浴・排泄の世話もあげられています。介護保険上のメニューにないような外出支援や話し相手についても上位にあげられています。

外出のお手伝いやお話相手など、介護をしておられる方を精神的・肉体的に支えていく活動とともに、介護が必要な状態を少しでも遅らせていくような予防的活動がもっと必要になってきます。そのための地域ぐるみのボランティア活動の推進は今後の課題であるといえるでしょう。

別表6 介護に関わる困りごと

(複数回答)



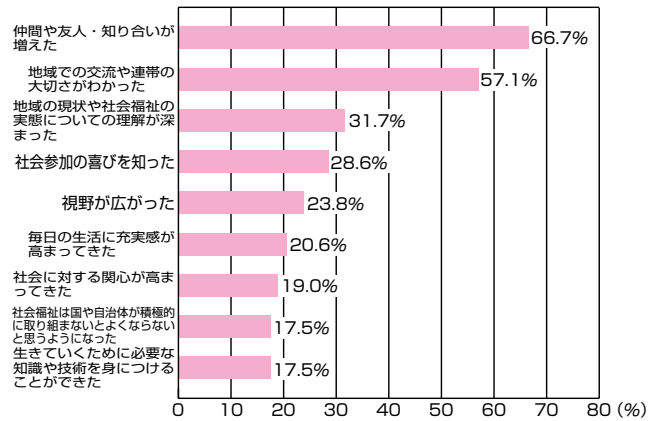
ボランティア活動について

ボランティアに参加してよかったこと

それではボランティア活動の状況についてみましょう。今回の調査では、ボランティア活動をしている方は全世帯の13.0%でした。「ボランティア活動に参加してよかったと思うことは何ですか」との問に対する回答は別表⑦のとおりとなっています。

別表7 ボランティア活動に参加してよかったこと

(複数回答)



ボランティア活動と地域の生活問題意識との関係

さらに、別表⑧のようにボランティア活動に参加している人はボランティア活動やその他の地域活動に参加をしていない人と比べて、生活問題について指摘をする比率が高くなっています。これは、くらしや健康に関わる具体的な活動に取り組んでいく中でくらしや地域に目が向き課題意識も高まっていった結果ではないかと考えられます。その意味では、くらしや健康に関わる地域活動の推進・活性化が地域生活問題の解決の糸口になるのではないでしょう

か。

ボランティア活動を通して人と人とのつながりが形成されると同時にそのことの大切さを感じとったり、社会福祉をはじめとした社会に対する視野がひろがっているようです。同時に個人的な充実感をも得ている結果となっており、このことから誰もが安心して暮らしていくためのまちづくりをすすめていく上でボランティア活動は重要な役割を果たしているといえるでしょう。

別表8 ボランティア活動などの地域活動の参加状況別にみた地域生活問題

(複数回答)

